

都 退 教 協 だ よ り

介護保険制度が大きく変わります！自治体に格差の危険

この十年で、国民の3人に1人が高齢者の時代になり、介護が必要な人も75歳以上では30%以上になります。そのため、公的介護の充実をめざした介護保険制度は、財政的理由から見直されます。

そのポイントは、
①給付の重点化と効率化、
②費用負担の公平化（負担増）、
③地域包括ケアシステムの構築です。これらが法改正され、実施されることになりました。

どうよに変わるのか

どのように変わるのか、どんな問題があるのかを解説します。

①予防給付（要支援）が廃止され市町村事業に移行される。

このことで、市町村の財政状況や事業方針によって訪問介護やデイケア（通所介護）に格差が生じるおそれがあります。

②市町村の窓口で25項目のチェックリストによるサービスの振り分けが行われ、認知症等の初期診断が困難になります。

③給付の重点化と効率化は、負担増と給付抑制につながります。

④特別養護老人ホーム（特養）への入所基準が原則要介護3以上となり、今以上に入所が困難になります。

⑤収入・資産調査を行い、所得によるサービス利用時の負担率引き上げ（合計所得280万円以上で自己負担1割→2割）、補助対象除外者が増える。

この他にも様々な課題がありますが、都退教協は、日退教・都退

協・高退連などの高齢・退職者団体とともに政府、自治体に高齢者の声を届けて、地域・在宅ケアの充実をはかるとともに、会員の皆様に情報の発信をしていきます。

高齢者の声を届けよう

この他にも様々な課題がありますが、都退教協は、日退教・都退協・高退連などの高齢・退職者団体とともに政府、自治体に高齢者の声を届けて、地域・在宅ケアの充実をはかるとともに、会員の皆様に情報の発信をしていきます。特に、各自治体の介護・福祉事業は、私たち自身が内容を知り、学び、発言・行動していくことが大切になります。

「戦争やせなご全国署名2015年版」

「ご協力ください。」

昨年七月一日、安倍政権は、多くの国民の反対の声を無視して「集団的自衛権」の行使を容認し、これまでの憲法解釈を変更する閣議決定を強行しました。

これに対して昨年三月に発足した「戦争をさせない1000人委員会」は、多くの市民とともに「集団的自衛権」行使容認の閣議決定阻止のたたかいにとりくみました。

とりわけ「戦争をさせない全国署名」は、短期間に、危機感と署名の重要性が徐々に広がり、日教組として百一万一四八七筆を集約することができました。

都退教協の会員の皆さまからも

自治体が設置する「地域包括支援センター」や「社会福祉協議会」等を活用して、住み慣れた地域・在宅で高齢者の生活基盤を確立できる実効性のあるネットワークづくりをめざしましょう。

四月十六日には、東京退女教と共催で「どう変わる介護保険」学習会を全日本自治体退職者会事務局次長の中西満さんをお招きして開催しました。学習を深め、お住まいの各自治体に予防給付など安心と信頼の医療・介護・福祉施策を実現するよう求めていく運動も展開したいと考えています。

たくさんの方の署名が寄せられました。ご協力に感謝いたします。

すでに自公政権は憲法改正の発議に必要な2/3を超える衆議院の議席を有し、来年の参議院選挙をねらっています。

また、安全保障関連法案は、地方選後の五月に国会審議が始められようとしています。これは、集団的自衛権の行使を容認した昨年7月の閣議決定の具体化をはかるものであり、容認できるものではありません。また、集団的自衛権行使に関わる日米ガイドラインの「改定」も目論まれています。さらに安倍政権は、沖縄・

飛鳥山で恒例の観桜会

毎年恒例になっている、都退教協の花見の集いが、予定どおり四月三日に行なわれました。TVなどで桜の開花に関する情報が連日流され、三月末には満開との情報しきり、我々が出掛ける時には葉桜見物になるかと心配しましたが、満開の桜を見ることができました。



今年も例年通り高校退職者会の皆さんと共同の花見となりました。目的地は飛鳥山公園、JR王子駅前に十一時に集合して公園に向かいました。風が強い日でしたが、駅前には私達と同じような団体が多く集まっていました。前日に都立高校の現職の皆さんが現地で見物の宴を催したブルーシートをそのまま利用させていただき、早速宴会が始まりました。私どもの花見の会でブルーシートの上に座って花見したのは初めての経験でした。それだけに高校退職者会の方々ともじっくり話すことができ楽しい会となりました。しかし、飛鳥山の広い園内を歩き回ることもなく時間を過ぎてしまっ酔ってしまい少々残念な気もいたしました。

その後、駅前に戻り懇親会となりましたが、すでに十分に酔いが回っていて、誰もが飲み物は少々、食事をして散会となりました。

参加者が例年より少なく盛り上がりには欠けた思いもありましたが、参加された方は満足された一日だったのではないかと思います。参加者、秋元、安部、柴田夫妻、及川、谷口以上六名。高校退職者会は五名でした。

秋には、行楽の会を予定しています。十月の会報でご案内いたします。(秋元 記)

協力ください。

※なお、署名後の用紙は、同封した返信用封筒（切手はいりません。）により送付していただけるようお願い申し上げます。
送料は、皆さんからのカンパでまかないます。

辺野古新基地建設の強行、戦後七〇年談話等による歴史認識の修正、原発再稼働そして憲法改悪へと突き進むもうとしています。こうした情勢をふまえ、「戦争をさせない1000人委員会」は、改めて「戦争をさせない全国署名2015年版」を提起しました。

この署名は、集団的自衛権の行使容認の閣議決定の撤回を求めるとともに、戦争参加を可能とするあらゆる法整備に反対する署名であり、全国運動の軸となるとりくみと言えます。

都退教協だより（本紙）に署名用紙を同封しましたので、是非ご



沖繩の民意を尊重し、政府は直ちに辺野古新基地の工事を中止すべき

沖繩の民意を無視した辺野古米軍新基地建設、高江ヘリパット建設工場の強行が行われ、反対する市民への暴行も行われています。都退教協は、三月二十五日「翁長沖繩県知事の『辺野古移設関連作業停止指示』は、沖繩県民の民意と法律に基づく勇氣ある決断であり、心から支持します。」とする激励と、政府に直ちに工事を中止するよう抗議を送付しました。

また、フォーラム平和・人権・環境（平和フォーラム）は、こうした事態を深刻に受け止め、次の事務局長談話を発表しました。

翁長沖繩県知事の「辺野古移設関連作業停止指示」に関する事務局長談話

指示

沖繩県の翁長雄志知事は、三月二三日、米海兵隊普天間基地の移設先とされる辺野古沖新基地建設に関して、移設に関連する作業の一週間以内の停止を沖繩防衛局に指示したことを発表しました。

沖繩県は、立ち入り禁止区域を示す浮き輪を固定するために、防衛局が投下した最大四五トンのコンクリートブロックが、埋め立て予定区域外の珊瑚礁を損傷しているのではないかとし、海底調査を実施してきました。しかし、新基地建設反対の運動を阻止するために建設予定地を大きく囲むように設定された立ち入り禁止区域内での調査を米軍が拒否したため、翁長知事は、岩礁破碎許可条件にある「公益上の事由」に基づいて工事を中止を命じたものです。この間、翁長知事は、仲井眞弘多前知事の埋め立て承認手続きの可否を問う第三者委員会の結果が出るまで、

工事を中止するよう防衛局に求めていましたが、三月二二日には半年間中断していたボーリング調査を再開していました。翁長知事の今回の勇氣ある決断は、法律に基づいた手続きであり、県民世論を無視した新基地建設工場の強行に反対してきた平和フォーラムは、心から歓迎するものです。

米国務省のハーフ副報道官は、「移設は計画通り進んでいくとわれわれは理解している」と語り、移設は住民の負担軽減と米軍の能力向上につながるという傲慢な見解を示しました。同様に、菅義偉官房長官は「仲井眞前知事に承認を受けた、粛々と工事は進める」として、翁長知事の指示を無視するとの発言を行っています。

2013年12月27日、仲井眞弘多前沖繩県知事は、県外移設との主張を突然翻し、唐突に辺野古沖の埋め立て申請を許可し、新基地建設工事に道を開きました。「選挙で『県外移設』を掲げた政治家としての公約違反であり、県議会が重ねて全会一致で求めてきた『県内移設反対、普天間基地は国外・県外移設』とする決議を決定的に踏みにじるものである」とした、2014年1月10日の沖繩県議会の抗議決議が、菅官房長官が主張する「仲井眞前知事の承認」には、県民の支持も含めて民主的手続きを全く欠いたものであることを明白にしています。加えて、2014年11月の県知事選挙での翁長雄志候補の圧倒的勝利が、「普天間基地の国外・県外移設」が県民の意志であることを揺るぎないものにしていきます。日本政府および米政府は、直ちに翁長知事の指示に従い、作業を停止するべきです。

辺野古沖やキャンブ・シユワブゲート前では、工事の強行に反対する県民の法に則った整然とした抗議行動が行われていますが、海上保安庁は、反対派女性の一人に馬乗りになって制圧するなど暴力的排除を行い、けが人の出る事態となつていきます。沖繩県民、そして沖繩県知事の話を貸さない強硬な態度は、民主主義国家と呼べるものではありません。日本政府は、直ちに沖繩県民および沖繩県知事との対話を開始し、沖繩県民の「国外・県外移設」の要求に沿った政策の転換を図るべきです。

平和フォーラムは、政府の傲慢な姿勢を許さず、翁長知事の判断を尊重し、沖繩県民の思いに連帯して、普天間基地即時返還・辺野古新基地建設反対のとりくみに全力を尽くすことを決意します。

都退教協の定期総会が、七月一日午後二時より日本教育会館五階日教組会議室で開催されます。

七月一日、都退教協総会！

総会は、会員全員が年に一度結果として、運動方針案・予算案をはじめ会員相互の意見交換と交流を深める場です。会員の皆様の参加をぜひお

願いいたします。年金制度や介護保険制度が大きく変わり、高齢者、退職者が声をあげなければ、老後の生活不安はますます高まるばかりの時世です。皆さんの声を結集して、住み慣れた地域・在宅での安心して暮らせる施策を実現しましょう。

第86回

メーデー中央集会に参加しよう！

メーデー中央大会は、今年も連合を中心に下記のように行われます。会場では役員が「都退教協」の旗を持っていますので目印にしてください。



日時 2015年 4月29日(水) (祝日) 午前10時~12時30分

会場 代々木公園B地区 (JR原宿駅・東京メトロ神宮前・代々木公園駅下車)

主催 日本労働組合総連合

事務局から

投稿を歓迎します

会員の皆さんの投稿(なるべく1200字以内)を「だより」紙上で紹介し、会員の方々の意見の交流をしたいと思えます。「社会保障」「集団的自衛権行使容認」「近況」「戦争体験」などテーマは問いません。寄稿を希望される方は下記までご連絡ください。

・投稿先：事務局 谷口滋 Tel/Fax:044-411-9853 e-mail: extani@gmail.com

会費納入のお願い

年度の切り替わりにあたり、全会員に「2014年度会費納入及びカンパのお願い」と払込取扱票を同封させていただきました。ご協力のほどよろしくお願い致します。